

小さな昆虫“タマバエ”の膨大な多様性

宗 祥史先生（鹿児島大学大学院・連合農学研究科）



皆さんはタマバエという昆虫をご存じでしょうか？ハエの仲間でもカやユスリカのような形をした体長数ミリの小さな昆虫です。その多くは植物に寄生し虫こぶを作ることでも有名です。さらに、タマバエの仲間は種数がとりわけ多いことが最近分かってきました。さまざまな方法で採集した昆虫のDNAを解析し、世界にどんな昆虫が何種生息しているかを調べた研究では、タマバエは約180万種が存在すると推定されました。しかし、これまでに実際に発見され、学名が付けられたタマバエは約7,000種しかいません。これまで多くの研究者がタマバエの研究をしてきたにもかかわらず、なぜ、ほとんどのタマバエが見つからないのでしょうか？この課題を解決するために、私は植物の蕾に潜むタマバエの存在に注目しました。この講演では、ヨモギの蕾に潜む膨大なタマバエの種多様性について、これまでの研究で判明したことを紹介します。また、私がこれまで行ってきたその他の研究についてもいくつか紹介したいと思います。

日時：2025年 6 月 18 日 (水) 19:00 – 20:00頃

会場：琉大熱研・西表研究施設・講義室

入場無料・事前申し込み不要（座席数には限りがあります・30席予定）

問い合わせ先

琉球大学・熱研・西表研究施設・事務室

電話：0980-85-6560

公開講座問い合わせフォーム →

